



渡り鳥の飛来する昆陽池公園
撮影場所 伊丹市昆陽池



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸知事

消えるまで
ゆっくり火の元
にらめっ子

迎春

あけましておめでとうございます。県下の消防団員・消防職員の皆様には、ご家族ともどもお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的にご尽力いただいております。最近、大規模災害が各地で多発しています。昨年兵庫県の西・北部を襲った大規模な水害がありました。その折には、当協会からの求めに応じて、各消防団の迅速な対応のもと、延べ一、三〇〇人にもなる消防団員による被災地支援活動を行っていただきました。被災地へ出動いただいた皆様に対しまして、改めて感謝を申し上げます。



新年のあいさつ

財団法人 兵庫県消防協会

会長 関山 巧

大きな信頼を得ているところであります。しかしながら、これに甘んじることなく、ますます大きくなる安全・安心に対する住民の期待に応えるためにも、消防団員・消防職員が一体となって、連携の強化、消防団の活性化に取り組んでいかなければなりません。皆様方には、どうか今後とも、住民の生命、財産を守るという消防の崇高な使命を達成するため、なお一層のご尽力をお願いいたします。今年兵庫県の消防操法大会が開催される年もあります。消防活動の基本となる操法技術の向上はもちろんのこと、消防団活動を広く一般住民の方々にも知っていただく機会としても活用するなど積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。最後になりましたが、県下各消防団、消防本部のますますのご発展と皆様方の活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。挨拶といたします。



元気で安全安心な兵庫をめざして

兵庫県知事

井戸 敏三

新年あけましておめでとうございます。二十一世紀も十年目、今年には阪神・淡路大震災から十五年の節目を迎えます。これを期に、改めて震災の経験と教訓を伝承する「伝える」「備える」「取組」ともに、創造的復興を成し遂げてきた兵庫の力を礎に、二十一世紀の成熟社会を先導する地域づくりを進めましょう。震災直後に五四〇万人まで減少した人口も、昨年十一月、五六〇万人を超えました。今後予測されている本格的な人口減少社会が到来しても、地域社会が活力を失わないよう、兵庫の多様性を生かし、元気な兵庫づくりに取り組まなければなりません。一つは、安全安心の確保です。台風九号の教訓を踏まえ、山の管理や谷筋の砂防対策などを徹底します。また、新型インフルエンザ対策、緊急経済雇用対策に万全を期

します。二つは、地域活力の増進です。ふるさと自立計画への支援、商店街の活性化、就業促進など、地域の努力を応援します。また、仕事と生活が調和する社会、女性や高齢者の元気を生かせる社会の実現をめざします。三つは、新時代の先導です。少子化、高齢化、地域偏在とともに進む人口減少などの社会の変化に対応するとともに、市町、県、広域の各段階で、自主自立をめざした改革を進めます。変化の激しい時代だからこそ、柔軟な発想と行動力で、ともに元気で安全安心な兵庫をつくりましょう。厳しさも 課題も乗り越え 行く先は 新たな地域の夢結ぶ途

謹んで新春のご挨拶を申し上げます

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 副会長 | 岸谷 義雄 | 副会長 | 小原 正幸 | 副会長 | 西垣 豪太郎 | 副会長 | 足立 進 | 副会長 | 向内 良夫 | 副会長 | 生越 敏雄 | 副会長 | 嶋澤 清美 | 副会長 | 梶間 信明 |
| 副会長 | 木村 光利 | 副会長 | 吉本 知之彦 | 副会長 | 五百蔵 俊彦 | 副会長 | 井戸 敏三 |

財団法人 兵庫県消防協会

平成二十二年元旦

年 頭 の 辞



消防庁長官

河野 栄

平成二二年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃のご尽力に対し心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

我が国の消防は、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねにより、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たすとともに、

昨年九月のインドネシア西スマトラ州パダン沖地震災害での国際消防救助隊の活躍などにより、海外において高い評価を得ております。

しかしながら、昨年は、四月の北朝鮮によるミサイル発射事案の発生、新型インフルエンザ(H1N1型)の感染拡大、七月から八月にかけては中国・九州北部豪雨や台風第九号、駿河湾を震源とする地震等のさまざまな災害が相次いで発生し、各地に大きな被害をもたらしました。

また、三月の群馬県渋川市での老人ホーム火災や大阪市此花区パチンコ店火災、一月の浜松市の麻雀店火災、杉並区高円寺での火災など多くの死傷者を伴った火災はいまなお記憶に新しいところです。

このように、相次いで発生する

る自然災害や地域社会の変化による災害の複雑多様化、新型インフルエンザへの対応など、消防防災行政を取り巻く状況は、大きく変化しており、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、総合的な消防防災行政を積極的に推進していく必要があります。

このため、消防の広域化や緊急消防援助隊の充実強化など消防組織における体制の強化とともに、医療機関との連携を一層推進する必要があります。また、併せて一般家庭における住宅用火災警報器の設置の推進や民間事業所における自衛消防力の確保、消防団や自主防災組織などの地域における総合的な防災力の強化にも積極的に取り組む必要があります。

そのため、昨年四月には、傷病者の搬送及び受入れの迅速か

つ適切な実施を図るため、救急搬送・受入れに関する実施基準について協議等を行うための協議会の設置等を行うための協会の一部改正を行いました。また、平成二一年度補正予算により、緊急消防援助隊の装備や救急体制の充実強化、住宅用火災警報器や消防団救助資機材搭載型車両の配備等の事業を推進しています。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

地 区 通 信 「平成二一年度合同防災訓練」

淡 路 地 区

去る九月五日(土)、兵庫県と洲本市、南あわじ市及び淡路市の合同防災訓練が淡路地区各地で実施されました。

今後三〇年以内に五〇％の確率で発生が予想される東南海・南海地震に備え、津波に対する迅速な避難や孤立集落対策、淡路広域防災拠点の機能検証、防災関係各機関の連携体制の強化、併せて市民等の防災意識の高揚、各種対策及びマニユアル・計画等の検証を重点項目として市民、防災関係機関等約九〇団体、約二二、八〇〇人が参加し、「午前九時、和

歌山県沖を震源とするマグニチュード八・六の地震が発生、震度六弱の強い揺れが観測され瀬戸内海沿岸、淡路島南部に津波警報が発表されるとともに地震による建物の倒壊等により死傷者が生じ随所で火災が発生した。」との想定で訓練が開始されました。

各市においては災害対策本部を設置して、情報伝達がスムーズに行われるかの検証や避難所の開設等が行われました。これに併せて沿岸地域では、防潮門扉等四三八箇所を閉鎖を確認しました。

波警報解除後の訓練として、関係機関の連携による救出救助訓練や医療機関による応急救護所設置と救護訓練、ライフライン復旧訓練等の総合的な実動訓練の実施や洲本港においての緊急物資輸送訓練が展開されたほか各関係機関による防災関係の展示も行われました。

新 春 の ご 挨 拶



財団法人 日本消防協会

会長 片山虎之助

平成二二年の輝かしい新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員、消防職員の皆様が、常日頃、地域の安心・安全を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

これまで星霜を重ねた先人の

ご努力の積み重ねにより、我が国の消防は着実な発展を遂げ、今や地域住民に最も身近な防災機関として、国民から多大の信頼と期待を寄せられております。

しかし、今日、災害や事故は複雑多様化の傾向を強めております。住宅等における火災は、依然としてあとを絶たずこれにより多くの方が亡くなっており、また、台風、集中豪雨による風水害も相次ぎ、特に昨年は、中国・近畿地方、九州北部の集中豪雨により大きな被害が生じました。海外ではインドネシア・スマトラ島沖で大地震が発生しましたが、国内の大規模地震の発生も懸念されており、国民保護法に基づく対応も含め、消防の責務は益々重大なものになっております。

その中で、とりわけ消防団

は、地域防災の中核として大きな期待を寄せられています。これからの防災体制の強化のためには、常備消防の充実はもとより、消防団自身の対応力の一層の強化を図るとともに消防団が要となつて、婦人(女性)防火クラブ、企業、各種団体、さらには自主防災組織などを含む一般住民の皆さんも参加する総合的な地域防災力を充実させる必要があります。しかしながら依然として消防団員の減少傾向が続くなど、憂慮すべき状況もあります。

そのため日本消防協会では、総務省消防庁、全国の消防団とともに団員の増員確保、さらには地域防災力の向上に努力を重ねており、特に昨年は、メンバーが将来の地域防災の担い手となることを期待されます少年消防クラブの活動を促進する趣

旨で、チェコで開催された青少年消防オリンピックに、日本から初めて四つの少年消防クラブ代表を派遣しました。その成果をこれからの青少年消防組織の活性化にいかしたいと考えております。

また、平成一九年度から救助資機材等を組み込んだ消防団多機能型車両を交付しています。が、この事業が先鞭となつて、国においても平成二一年度の補正予算で全国に三百台を超える同様の車両を交付することとなりました。これらの資機材が万が一の時に十分に活用されますよう訓練用DVDを配布し、訓練の充実を図ってまいります。

また、国際交流の面では、中国の消防協会とは二五年に渡る交流を続けてきましたが、このほか新たに韓国の消防安全協会とも交流することとし、昨年

一月に日韓消防友好協定を締結しました。併せて中国消防協会も含めた三者協議を開催し、日中韓で消防交流を一層推進することを合意しました。消防の分野における三方国の交流は、それぞれの国の消防の発展はもちろん、災害が多発するアジア地域の安全向上にも意義があると考えられます。

その他の各種施策・事業についても、引き続き関係機関、団体との協力連携のもと、日本消防の更なる発展のため、全力を傾けてまいりたいと考えております。関係者のご支援ご協力をお願いする次第であります。

最後に、全国の消防関係の皆様がますますご健で、地域の安心安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心よりお祈りして年頭のごあいさついたします。



倒壊した建物の下敷きになった人の救出を行う参加者



負傷者を救護所へ搬送する消防団員

「生涯現役」

西宮市消防団
今津分団分団長

長宗 成夫



少年の頃、分団長であった父親の活動を見て育ち、昭和三三年四月、西宮市消防団今津分団に入団し、今年で団員暦五一年に達しようとしております。当時の団員は、店主や職人、農家などであったため、火災の召集にすぐに駆けつけ、法被をまとい出動したものです。しか

し、今日では、団員のほぼ半数が会社勤めとなってしまいました。昔と変わらぬ消防団活動に頑張っております。西宮市は大正一四年四月一日に誕生し、昭和から平成へと大きく発展し、現在も人口増加の一途を辿っております。しかしながら、西宮市は過去と比べ大阪、神戸のベッタタウン化が進み、消防団の地域活動としての意義、また存在価値等が住民意識から遠ざかりつつあることも否めません。この点においても団員として、より一層の努力が必要であると痛感しております。

平成七年一月一七日の阪神淡路大震災では、今津分団区域も被災家屋が多くありました。私も、地震発生直後、家族の安否を確認してすぐに参集し、分団員とともにスコップやバールなど基本的な資機材を活用し人命救助を行いました。また、私たちは、市内でライフラインの復旧が遅れている地域を重点的に、消防ポンプ自動車に農業用の水槽を載せ、住民に対する給水活動を約3ヶ月間無休で行いました。その時の被災者の方から掛けられた、感謝の言葉や表情は、忘れることはできません。これからも私は、消防団員として生きていく以上は、おかげさですが、「生涯現役」の気持ちは忘れずに、たとえ服装が法被姿から活動服へ時代変化しようとも、伝統を重んじ消防団の魂を次の世代に繋げていきたいと思っております。

消防団今昔

65

「和のまち太子」

揖保郡太子町消防団長

嶋澤 清美



太子町は、聖徳太子ゆかりのまちとして、また、JR山陽本線、山陽新幹線、国道二号線が通る交通の要衝として発展してきた町です。

消防団の歴史は、昭和初期の「消防組」に始まり、戦争体制に入った頃より消防団に改められ、終戦後、市町村が管理する「消防団」が組織され、男子一八歳になれば皆消防団に入団する義務ありと認識していたも

昭和二六年、町村合併により「太子町消防団」が発足し、団員数一〇五〇名、四〇分団の体制となり、その後、第一次消防団機構改革で、四機動、五三分団、四五七名とし、現在に至っております。明治・大正期より、腕用手押しポンプが各地区で常備され、その後エンジン付ポンプに移行してきましたが、設備としてはお粗末な状態で、消火・水防には多くの人力に頼るしかありませんでした。



出初式での腕用ポンプ

消防体制の近代化のため、常備消防の設立が望まれ、昭和五六年に揖保消防本部が設置され、常備消防と消防団の役割分担が変化してきました。前述の第一次消防団機構改革が行われたのが昭和五九年で、常備消防の充実と消防団員の定数減が拍車をかけたのか、住民の消防団に対する意識が薄れ始めた時期もこの頃のように思えます。しかし、いざ近年のような災害の状況から、突然の集中豪雨の発生や甚大なものが発生すると常備消防と消防団員の力をあわせて活動は不可欠であります。

太子町では、一人でも多くの町民の皆様へ消防団に対する理解と協力を呼びかけるため、消防本部の協力のもと、町民参加型の消防出初式として、式典に続き、はしご乗り演技、幼年消防クラブ員の演技などを平成一八年から行っています。聖徳太子の「和」の精神を大切に、今後もいろんな機会を捉え、微力ながら消防団の重要性を訴えていきたいと思っております。

わがまちの団長さん

「命にかかわることを最初に考える団長」

篠山市消防団

市野 哲雄 団長



地区通信

「防火・防災研修」を開催して

姫路市飾磨消防団

姫路市飾磨消防団では、平成二二年八月五日、姫路市防災センター多目的ホールにおいて、「防火・防災研修」を開催しました。

消防団は、火災や地震、風水害等の災害対応が最も重要な任務であり、これまでも防災訓練、水防訓練、ポンプ操作訓練や応急手当指導員講習など、災害現場に対応するための訓練は十分行ってきましたが、昨今では、地域における防火・防災のリーダーとしての指導的な役割もますます求められるようになっております。そうした期待に応えるべく、当研修は、防火・防災に関して更に一歩踏み込んだ専門的な知識を習得し、地域住民に信頼される消防・防災の中核的存在として今後も大いに活躍できるように、飾磨消防団初の試みとして実施したものです。

研修は、飾磨消防署の予防係員を講師として、水曜日の一八時からという時間にもかかわらず、梶原消防団長以下一四分団から一四一人もの消防団員が参加し、熱心に取り組まれました。飾磨消防団は、姫路市の南東部が管轄区域で、その中には西一四kmの海岸線に沿って、重化学工業を主体に危険物施設を多数抱える姫路臨海地区特別防災区域がある一方、大規模商業施設やオフィスビル、マンションなどが数多く建つ多種多様な地域です。そのため、講義の内容は、防火管理の意義と制度、出火防止と収容人員の管理、危険物等の安全管理、施設及び設備の維持管理、消防用設備等の操作要領、自衛消防、防火管理の進め方と消防計画、というように、防火管理から危険物まで多岐にわたる研修となりました。



研修の様子①



研修の様子②

篠山市からは、平成二二年四月一日に就任された市野哲雄（いちのてつお）団長を紹介いたします。市野団長は、篠山市が平成一年に合併する以前の旧今田町出身で、歴代の団長で始めて旧今田町から選出された団長です。団長として最も大切に考えておられるのは、「命にかかわること」です。

特に、行方不明者の捜索については、一分一秒を争うこととして大切に考えておられ、最近、認知症による行方不明事案が多ことから、「認知症の理解」を深める研修を消防団員向けに開催されました。また、最近の地球温暖化によるものとも思われる気象の変化、特に、豪雨についても、こ

れまでの仕事で培われた土木技術の経験をもとに、消防団員に対して自ら講師となって水防に係る講演をされました。市野団長は、以上のような堅い一面だけでなく、レース鳩の飼育が趣味で現在約一五〇羽飼育されています。近い将来、北海道稚内からの一〇〇〇キロメートルレースで優勝することを夢にされている、人間味あふれる団長さんです。

消防団活動を通して

丹波市消防団柏原支団
第一分団第二部
畑井 大輔



私は、平成一八年一二月に丹波市消防団に入団しました。入団当初は、毎月の巡回、年末警戒、火災訓練、部隊訓練、操法大会、消防査察、更には地域のイベントへの協力など盛りだくさんの消防団活動に驚かされました。上手くできないことも多く挫けそうになりましたが、諸

先輩方からの丁寧な指導や励ましもあって消防団員として活動し続けられています。

さて、昨年度、私は、操法大会で一番員を務めました。ホースを投げたところから何度も練習し最後には実際に火点に向けての放水を行いました。

水圧が強くなる支える難しさややり過ぎた充実感を覚えていきます。仕事終わりに関わらず夜遅くまで何度も練習に付き合ってくださいました。感謝しています。まだ、火災現場で放水した経験はありません。しかし、このような訓練がいつ起こるか分からない火事の備えとして大切だと思います。

この一二月で入団して早三年が経ちます。消防団活動を通して、私自身多くの繋がりが持て

るようになりました。団員同士の繋がりは勿論のこと地域との繋がりも増え、同じ市内に住むもの同士の結果が高まったように思います。このような地域に住むもの同士の結果が火事の際にも役立つものと信じています。

これから寒くなり火を使う機会が増えることで火災のリスクが高まります。火災現場での経験は正直多くありません。現場で怪我をしないためにも集中して訓練に取り組み、啓発活動を通して防災に努めたいと思います。地域の財産と生命を守るために今後とも丹波市消防団の一員としてより一層消防団活動に取り組みます。

われら若手消防団員

消防団に入団して

姫路市夢前町消防団
前之庄分団

大谷 有生



私は、平成一七年に夢前町消防団に先輩の誘いを受けて入団しました。

入団するまでは「消防団は火事の時に活動するものだ」と思っていました。実際に入団して、その他にも様々な活動があることを知りました。

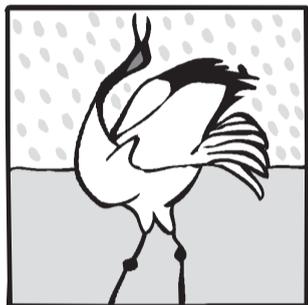
そんな中で、特に印象に残っているのが行方不明者の捜索・救助活動でした。「山中に入っ

たまま夜になっても帰宅しない」との事案で出動要請があり、雨が降る中二時頃に捜索・救助の為に集合し、懸命に捜索を行いましたが発見できず、夜間で二次災害の危険性がある為一旦解散し翌朝再度集合しました。その時には関係者・警察署・消防署との混成で班編成が行われました。「万が一の事も有り得る」と先輩の団員から聞かされた時に、私は「どうか遭難された方が無事でいて欲しい」という気持ちで班長の指揮の下捜索を続け、数時間後に発見されました。

この時に私は、他の機関と連携して活動を行う中で、適切な判断・指示・行動が迅速に行われている事を知り、その為の、普段からの訓練の必要性を痛切に感じました。

入団してから以降、火事や風

水害の非常時に出勤することはもちろんの事、あの時の経験から、地域での自主防災組織との合同訓練に参加したり、避難所運営訓練や応急手当の指導など多種多様な行事にも参加して、地域の皆さんの「安心・安全」を守る為に、一日も早く「信頼される立派な消防団員」になることを目指して日々頑張っています。



北から南から

安全管理セミナー及び
認知症理解研修を実施

篠山市消防団

篠山市消防団では、平成二〇年から火災出動中に負傷などにより公務災害が相次いだことから、また、行方不明者の捜索において認知症者がしばしばみられることから、認知症者への理解を深めるとともに、行方不明者捜索の手掛かりの一助となるよう、一月五日(土)午前九時三〇分から、班長以上の階級者二七〇名に対して「安全管理セミナー及び認知症理解研修」を実施しました。

安全管理セミナーは、「消防団員等公務災害補償等共済基金」の「消防団員公務災害防止研修事業」のメニューの一つとして、消防団員等公務災害補償等共済基金から専門の講師を派遣いただき、セミナーを実施しました。

セミナーの中では、講師から、公務災害は、出動中に「心疾患」や「脳疾患」を発症する事例が多いが、消防団員には、あまり周知されていないこと。また、ポンプ操法訓練において、熱が入りすぎる余りに、肉離れ、ね

んど、骨折などの負傷事例が多く見られることが紹介され、注意が促されました。

また、認知症理解研修におきましては、認知症発症が、最近の長寿化により増加していることや、新しいことから記憶が消えて行く傾向にあるなどのメカニズムについて理解し、今後の行方不明者の捜索の手掛かりにもなることなどを研修しました。

参加した消防団員は、活動中に「心疾患や脳疾患」を発症することが多く、また、ポンプ操法においても負傷が多い実態、また、認知症への理解を深め、今後の活動に心を新たにしました。

篠山市消防団では、平成二二年二月二十七日(土)に、同じく消防団員等公務災害補償等共済基金の消防団員公務災害防止研修事業の「消防団危険予知訓練(SIKYU)研修」を副分団長以上の階級を対象に実施し、より一層の公務災害防止に努めてまいります。



安全管理セミナー



認知症理解研修

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

さて、今月号では各団体代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、各地区から多数寄稿をいただき、ありがとうございました。

皆様方におかれましては、新しい年を迎え、心機一転、改めて消防団活動に取り組んでおられることと思います。

本年も「兵庫消防」を愛読のほどよろしくお願ひします。



- ・操法最適ホース : コンペVシリーズ
- ・小型動力ポンプ : ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般



有限会社 西垣消防器具製作所

669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
TEL: (079)672-3131 FAX: (079)672-3132
E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp

「こんにちは!兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/